



校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗 誠



我が子の過ちをプラスに転ずるために

我が子が何の波風を立てることもなく成長してくればよいのですが・・・。

人様に迷惑をかけないように気を付けて育てているつもりでも、「まさか、我が子に限って・・・」と思えるようなことがないとは言い切れません。それは保護者となった以上、ある意味覚悟しておかなければならないことでしょう。

そんなことを我が子がしてしまったとき、保護者としてどうあるべきか・・・。

まず、保護者の心に真っ先に浮かぶのは、我が子を信じたいという強い気持ち。

次に、たとえ、我が子が相手方に迷惑をかけていたとしても、そんなことをしたのは、それなりの理由があったにちがいないという気持ち。

さらには、その「それなりの理由」を主張し、我が子を少しでも守ろうとする気持ち。

これらの気持ちは、保護者であれば、ごくごく自然な気持ちです。

しかし、それだけで終わってしまうと、残念ながら我が子の成長にはプラスになるとは言えないでしょう。

では、どうすれば、我が子の過ちをプラスに転ずることができるのでしょうか？

私は次の2つことが大切だと考えております。

1 自分の過ちをしっかりフォーカスして反省させる。

我が子の「それなりの理由」に対し、保護者として理解を示すことは必要ですが、それが行き過ぎ、擁護し過ぎて、「言い訳」を主張し過ぎる人に育ってしまわないようにしたいですね。相手を許せるおおらかな人にも育ってほしいのであれば、なおさら、自分の過ちをしっかりとフォーカスして反省できるよう、我が子に向き合うのがよいでしょう。

2 相手方に対する保護者としての誠意を我が子に見せる。

大人であれば罰せられる案件については、たとえ子どものしたことであつたとしても、また、「それなりの理由」があつたとしても、保護者として相手方に直接誠意を示すのが当然のことでしょうね。保護者として心からお詫びをする様子を我が子に見せることによって、なおさら、我が子は自分のした過ちを深く反省し次につなげることのできる人に育つでしょう。